

[今年の現代ユニバース] HYUNDAI UNIVERSE

取材協力 ■ 三谷興業株式会社 / Hyundai Mobility Japan株式会社

インバウンドに代表されるように観光需要の高まりが続いている中で、ユニバースの様なハイデッカーの需要も着実に増えている。忙しくなったバスにおいて必須なのは、そのバックアップ体制といえる存在だ。今回はユニバースのメンテナンス、修理から車検まで一手に引き受ける実力派の工場が三谷興業だ。

ユニバースの新しい指定工場は広さ3300坪!!
この広大な敷地にミッチリとメカニカル設備が凝縮!!



リフト上のレーンブースに入ったユニバース。フルサイズのハイデッカーが入庫してもかなりの余裕がある、驚きの広さだ



20tトラックやハイデッカーなど、大型車両が入ってもこの余裕ある空間が確保されている。その大きさ広さがわかる



リフトアップされた「あま交通」のユニバース。メカニックスタッフが普通に立って歩けるほどの高さまで持ち上げることができる。作業性確保のためだが、そのために工場の天井は高い!!

「働く自動車」の専門家でありながらバスの指定工場は初!?

名古屋エリア、伊勢湾岸道路の東海ICからほど近い場所にある三谷興業株式会社、その自動車事業部・東海工場におじゃました。大型車を29台置けるという駐車場がある約3300坪という広大な敷地に入ると、正面にある巨大な建屋が視界を埋め尽くす。これが三谷興業の東海工場で、2022年4月に移転リニューアルしたピッカピカの工場棟だ。

正面から見てセンターや右にある事務部門のエリアを挟んで、その左側に7レーンのリフト付きブースと洗車場、検査ラインが並び、一方の右側は小型車用リフトを4基備えたブースと鍍金ブースを配置。目標年間車検台数3200台を誇る、とんでもないスケールの工場だ。

この三谷興業は、実は2023年10月にヒヨンドの指定工場になったばかりだ。もちろんこれまでトラックもバスも分け隔てなく整備を手掛け、全国でもトップレベルの実績も実力もある企業だが、意外にも特定のバスの指定工場になったのは初めてのこと。

東海地方での ユニバースの ニューパートナー、 三谷興業っ!!

今回の取材でインタビューにご対応いただいた三谷社長（右）と松本工場長（左）



3300坪の敷地に建つ工場の建屋はとにかく大きい。この中に大型車がスッポリ入るレーン（洗車場なども含む）が12も確保されているのだ



ユニバースの下回りでエアツールを使用するメカニック。作業性のイイ高さだ



ユニバースの下回りを整備するメカニック。工場の床面もキレイでリフトも高く上がるので、「寝板」を必要としない



リフトアップされたユニバースを後方から。天井部のゆとりがわかる

お話を伺った代表取締役の三谷社長は「以前の工場が手狭になり、3倍の広さがあるこの新工場に移転リニューアルをするに際しまして、新しいことにチャレンジしよう!! という意味も込めてヒヨンデさんと契約したものです」という。

「バスの整備そのものを始めたいという方針もありまして、積極的に手掛けるにはいい機会だったということもあります」と話すのは自動車事業部部長の松本工場長だ。「新しいことを始めるにあたっては、どうしても不安はいっぱいあ



ユニバースのエンジンルームに手が届く高さに設定。太いポールを油圧でコントロールするため、安定性も良好だ



逆に床が沈んで階下から作業するタイプのリフトレインブースもある。オイル&フルード交換などにはこちらの方が作業性がイイ

りますが、優秀なスタッフも揃っていますし、ヒヨンデさんのバックアップがイイので安心してチャレンジできます」と続けた。

「パーツが翌日までには確実に届くことがありがたいですよ」と三谷社長が付け加えた。

「ユニバースはお隣の国のメーカーとはいえ、輸入車ですから風土によるトラブルの発生がないか、気になりますね。冷却系など日本車とは異なる部分ですね」と切り出す松本部長。国の違いが弱点になるのか、という懸念だが続けて

「現在も多くのユニバースが日本



これはタイヤを持ち上げて自在に移動させる「スカイトレイン」というタイヤキャリアリフト。もちろんハブ分解時に活躍し、メカニックの負担を著しく軽減する

を元気に走っているのです、実際に問題になるとは思えませんが、それも、経験を積んで行く、ことで解決するはずですよ」と締める。

施設や業務の巨大なスケール感に対する社員数に2度驚く

三谷興業・東海工場のパフォーマンスを知るひとつの指標に、マンパワーの充実度があることがわかった。2023年12月現在の全従業員数は34名。この広大な敷地に!? と疑問を持つことを禁じ得ないが、そのうちの整備担当者は25名という。ほか事務方や営業スタッフとなるが、しかし国家自動車整備士資格保持者29名のうち15名が検査員資格も保有するという、とんでもない精鋭ぞろいのスタッフ層が構築されているのだ。

「バスやトラックなどの大型車は、整備や修理、車検のための車両休業時間を少しでも減らし、稼働時間を増やさないとそれぞれのお客様の収益に関わってきますので、弊社では1日車検も実施しております」と三谷社長。三谷興業の顧客である、トラックやバス事業者に勤務する人の家用車の車検や整備も引き受けている、とのことだ。

また昼夜を問わず、物流に旅客移送に稼働しているトラックやバスだけに、深夜などにトラブルやアクシデントが発生する場合も少なくない。そんな事態のために三谷興業では、365日24時間受け

設備の充実度が強力なら マンパワーは超強力……

創業60年の実績がバス整備に対する 自信の裏付けだ!!



こちらは検査ラインのディスプレイ。車検の可否判定を瞬時に表示する。



全自動の検査ライン。車検や完成検査をスピーディーに行なうためのレーン。効率の良い仕事で車両の稼働率向上に貢献する。

正面玄関から入ってすぐの、受け付けのあるオフィス。広々とした空間で、ヒヨンドの指定サービス工場の認定証プレートが置かれている。



オフィスから工場の様子を一元チェックできるモニター。ピスひとつ落としでもわかる、品質管理体制だ。



こちらは量敷きのリラクゼーションスペース。休憩や、ちょっとした体調が悪い時にも利用できる。



打ち合せや会議から、ちょっとした寛ぎタイムまで、さまざまな使い方ができそうなワークスペース。オフィスの上の階にある。

「働く人にとって必要なものを用意したに過ぎません」と松本部長は話してくれたが、業務中のちょっとした気持ちのリセットにも有効なスペースも、高精度の仕事をこなすにあたってプラスに作用することはまちがいない。

工場施設というハードウェア、そこで働く人のスキル、それらを取りまとめる環境づくりにも隙間がない三谷興業の東海工場なら、ユニバースのメンテナンスを丸投げしても安心であると感じられた。

付ける「M-I-T-A-N-I緊急対応サービス」というシステムを展開している。

これは専用のコールセンターを構築してこれにいたり、業務の停滞や停止を可能な限り少ない状態に防ぐことを目的として工場休業日であっても対応できる体制だ。

それら、ユニバースを受け入れるに適した工場などの業務設備に加え、事務棟ともいえる建屋の、白い部分、1Fは受け付けに始まる広い事務所や商談スペースが用意されているが、2Fに上がるとおおよそ「工場」とは思えない洗練されたお洒落空間になっている。

こちらは従業員がワークスペースとして使用することをベースに、ランチ&ミーティングスペース、応接スペース、リラクゼーションスペースなど、業務外のリラクゼーション空間としても機能している場所として用意されていた。